

「インタラクティブな外国語教育～日本でスペイン語を使って交流する」

第 162 回関西スペイン語教授法ワークショップ (TADESKA) 例会

日時：2023 年 6 月 11 日 (日) 10:30 - 11:30

場所：関西学院大学梅田キャンパス(ハブスクエア) 1408 教室

担当：江澤照美

Enseñanza interactiva de lenguas extranjeras: comunicarse en español EN JAPÓN

CLXII Reunión del Taller de Didáctica de Español de Kansai (TADESKA)

Fecha y hora: Domingo, 11 de junio de 2023, de 10:30 a 11:30

Lugar: Universidad Kwansei Gakuin, Campus de Umeda "K.G. Hub Square", Aula 1408

Moderadora: Terumi Ezawa

\*\*\*\*\*

現代の外国語教育では、情報発信だけでなく、他者とつながるためのコミュニケーション能力の育成が求められている。今年度の TADESKA の年間テーマが「新しい時代のスペイン語教育」であることをふまえ、本ワークショップでは、学習者が日本国内でスペイン語を使うことを想定した入門レベルの授業活動を取りあげた。

まず、日本の大学における外国語教育が目指す方向性の変遷を確認した。考察の出発点は前世紀後半の教養としての外国語教育であったが、その後会話運用能力の向上を目指す「発信の語学」教育が脚光を浴びた。しかし、今世紀に入って一方通行的な情報発信にとどまらず、他者と積極的に交流し連帯するための外国語教育が求められるようになってきた。日本の外国語教育が「発信の語学」を指向し始めた前世紀末頃から、労働力としての移民の積極的な受け入れ政策により外国籍住民が増加した。長期滞在者の多くは日本の社会に適応しているが、中には様々な理由で言語上のコミュニケーション問題を抱えている人々もいる。さらに今世紀に入り、政府によるグローバル人材育成政策の一環として世界各国から来た留学生が日本の多くの大学で日本人学生と学ぶ機会が増えた。また、手軽に訪問しやすい旅行先として日本を選ぶインバウンドの存在が近年取りざたされたりするようになった。そのような日本と諸外国との関係の変化にともない、外国語を学ぶ意義も変わってきた。以前は学習者が習得した外国語を使う場はほとんどの場合日本国外であったが、いまや教室の場で習得した語学能力を国内にいながらにして使用する可能性を考慮する必要が生じてきたのである。そこで本ワークショップでは、上述のような時流に沿った新しいスペイン語教育の在り方を参加者と共に考えていくことを目標とした。

担当者はまず日本のスペイン語教育者が留意すべき二つの点を指摘した。一つは、スペイン語が英語と同様に世界共通語であるため、日本のスペイン語学習者がスペイン語で話

をする相手はスペイン語母語話者に限定されないことであり、もう一つは、大学で学ぶ第二外国語学習者が文化や社会について多くのことを語るほどの力を十分には持っていないという一般的な事実である。前者については、日本の学習者にスペイン語の利用価値として積極的に伝えるべきであり、学生の学習モチベーションをあげるのに役立つはずである。また、後者については、将来日本の文化や社会についてより詳細に語れるような語学能力を獲得する前の段階として、入門段階では非常に簡単な表現でよいので日本の文化や社会についての表現からまず覚えていく必要性を教師が学習者に説くべきである。

次に、日本について、あるいは日本人向けとしてスペインまたは日本で刊行されたE/LE教材の特徴を述べた。さらに担当者が2014年に講師を担当したラジオ講座のコンセプトについて紹介した。従来の日本のスペイン語テキストのスキットの大半は、日本人がスペイン語圏でスペイン語母語話者と交流するという設定になっている。しかし、日本人が国内でスペイン語を用いて他者と交流するという設定に代えることを意図すると、導入する表現や語彙、場面などの見直しが必要になる。

そこで本ワークショップの最後は、グループ活動の形で参加者間での意見交換およびグループで話し合った内容の発表をおこなった。活動内容は、日本で使うことを前提としたスペイン語の教育において留意すべき点を参加者全員で考えることである。ただし、対象として想定されるスペイン語話者は多様性に富んでいるため、留学生向け／インバウンド向け／外国人在住者向け のそれぞれについて、ヨーロッパ共通参照枠 A1 レベルに限定した上で、適切と思われる表現その他のアイデア交換をおこなってもらった。

留学生／インバウンド／在住者 それぞれについて議論するには時間が不足していたようで、参加者にとって身近な留学生との交流についてのアイデアや意見が比較的多く出た。会話スキットが日本を舞台にしたE/LE教材は非常に少ないが、各教師の教育環境に応じた授業案作成は、時間をかけて取り組むことにより学習者のモチベーションアップに寄与しうるものができると思われる。